

# 第1章 平成15年度の研究について

濱田 貴宏

## 1 研究テーマ

友達とかかわり合いながら創る生活  
～教育課程の再編成に向けて～

## 2 テーマおよびサブテーマ設定について

「友達とかかわり合いながら創る生活」という研究テーマは平成11年度から続いており、今年度で5年目を迎えた。5年目を迎えるにあたり、これまでも様々な角度から実践を検討してテーマに迫ってきたという経緯からそろそろ新たなテーマを設け研究を進めていけばどうかという考えも出てきた。しかし、当園の教育目標及び目指す子ども像（「一人一人の幼児が自分なりの力を発揮し、友達とかかわり合いながら生きる力をやしなう」）に向かおうとするとき、上記のテーマは的確に私たちの意思を表しているものではないかと改めてとらえ直した。そこで、今年度も上記テーマを掲げて研究を進めていくことを共通理解した。

テーマそのものは結果的にこれまでと変わらないものとなったが、今年度はサブテーマを設けることにした。そのサブテーマが～教育課程の再編成に向けて～というものである。このサブテーマを設けた背景には以下のようなことがある。

昨年度の研究の反省点の一つに、「一昨年度からのボトムアップ形式の研究なので、現段階の指導計画については共通理解ができているが、教育課程については、平成5年度に作成されたものに準拠したままになっている。それを、今日的課題と照らし合わせながら、今の状況にあったものに再編成していく必要性を感じている」とある（研究紀要第49集、p82参照）。昨年度までに指導計画は作成したものの、教育課程にメスを入れるまでには至っていなかった。そのことが我々の心の片隅にひっかかっていた。そこで、前述の反省点を受けて、今年度サブテーマとして教育課程に迫るものを掲げたのである。

加えて、テーマ上には明文化されていないが各学年のスローガンについても目の前の子どもたちの実態と照らし合わせながら、妥当なものなのかどうかを意識していこうということを確認し合いながら研究を進めていくことにした（ここでいうスローガンとは、平成12年度の研究において、私たちが幼児の育ちを考慮したときに共通理解したものであり、各年齢時における指標の一つとしているものである。具体的な文言については5ページを参照のこと）。

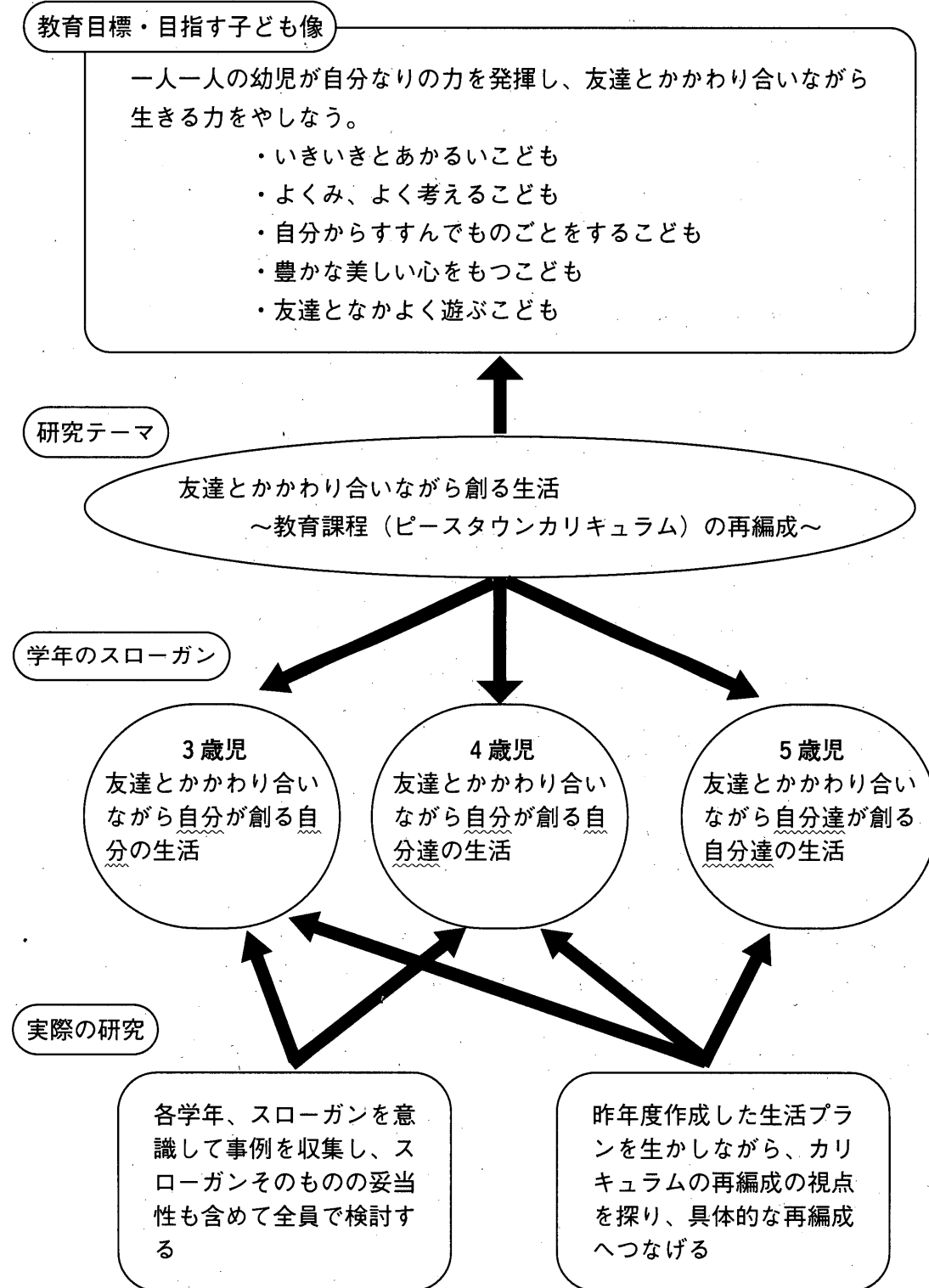
## 3 研究の目的

- ・教育課程を再編成する
- ・学年のスローガンの妥当性を検討する

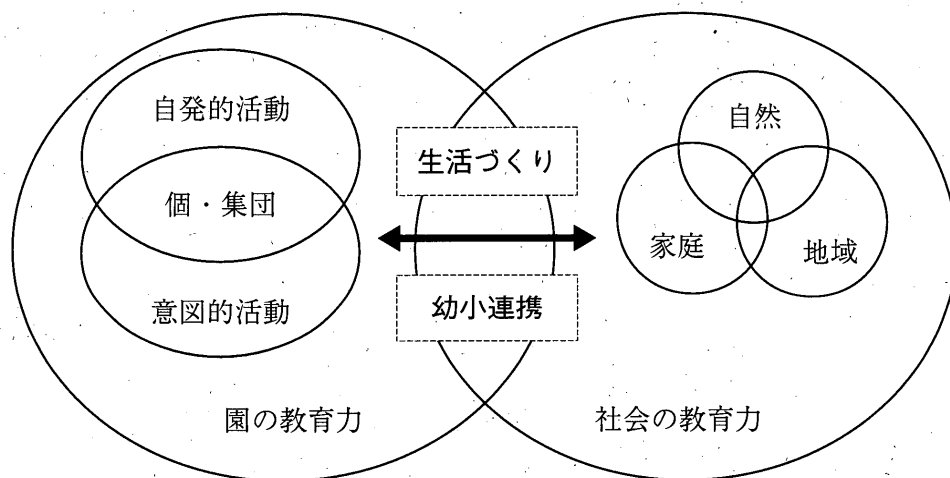
## 4 研究の方法

- ・昨年度作成した指導計画「友達とかかわり合いながら創る生活プラン」を念頭に置きながら教育課程再編成に向けてのキーワードを探り、再編成につなげる。
- ・各学年、スローガンを意識して事例を持ち寄り、全員参加の研究会で事例そのものを検討するとともに、スローガンそのものについてもその都度問い直す。

## 5 研究の全体構想



## 6 研究を支える保育構造



### ○園の教育力について

#### \* 幼児教育の二本柱

- ・ 自発的活動の場・・・幼児が目の前の環境にかかわろうとする際の、主体性、自発性を保障する場。
- ・ 意図的活動の場・・・教師が幼児の実態を見極めながら、意図的に仕組んでいく創造活動の場。技術的、表現的側面を大いに含む。ルーティン的活動（同じメンバーで同じことを継続的に取り組む活動）もこの中に組み込まれる。

### ○社会の教育力について

- \* 週一回定期的に子どもたちの様子を観察している園医の協力を得て、言動が気になる幼児に対してアドバイスをもらったり、専門家を紹介してもらい、専門的な立場からアドバイスをもらったりする。
- \* 保護者からの外部評価の結果を受けて、さらなる保護者との連携を意識し、保護者同士の教育力を高めたいという願いのもと、大学主催の公開講座に「子育て学」と銘打って講座を立ち上げる。